

# さい帯血バンク NOW

## 第69号

4月15日発行  
日本さい帯血バンクネットワーク  
発行者：加藤俊一（会長）  
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル内  
TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417 <http://www.j-cord.gr.jp/>

## さい帯血移植症例数前年比92件増 累計移植数1万例は今年8月にも

わが国で実施されたさい帯血バンクを介したさい帯血移植の症例数は、2012年度（2012年4月～2013年3月）では1,198例が行われました。前年（2011年度）は1,106例でしたから、この1年間で92件の増加となりました。ここのところさい帯血移植数は年に1割弱の増加を示していて、この傾向はこれからも続くものと思われます。

また、2013年3月末までの累積移植数は、9,555例となりました。ここ数年では毎月100例前後のさい帯血移植が行われています。このまま順調に推移すれば、今年8月中にも累計で1万例を突破するものと思われます。日本における非血縁者間さい帯血移植は、

世界に先駆けて1万例の大台に乗ることになります。

- 1万例突破で記念イベント  
日本さい帯血バンクネットワークで

は、毎年9月に「さい帯血バンク推進全国大会」を開催していますが、今年の大会は1万例突破を記念した特別イベントとするべく、準備を進めることにしています。

### 総会で上半期計画と予算を承認

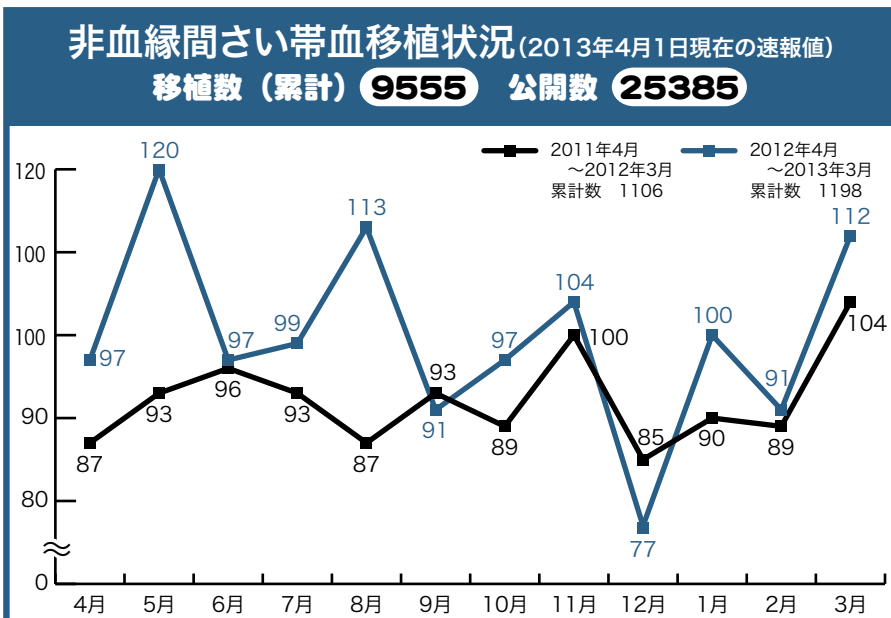
3月25日、日本さい帯血バンクネットワークは総会を開催し、2012年度補正予算、2013年度事業計画と予算などの議案が諮られ、いずれも承認されました。

今年度の事業計画では、昨年9月に

成立した「造血細胞移植推進法」の施行に向けて、さい帯血バンクを含めた関係組織で法制化にともなう今後の運営体制について議論が行われている中で、新しい法律の下で日本さい帯血バンクネットワークは役割を変え、新しい形態で事業が運営されていくことが予想されている、と位置づけています。

本来なら、年度通期の事業計画と予算が提案され、審議されるのですが、従来の日本さい帯血バンクネットワークの活動を本年度途中まで継続的に実施する事業計画と予算になりました。

なお、日本さい帯血バンクネットワークの予算は本来、すべてを国庫補助金によって運営される性格のものでありますが、ここのところ補助金だけでは経費が不足し、各さい帯血バンクがネットワークに納める会費や市民からの寄付金などネットワーク独自財源からの大幅な補填がないと運営できない事態になっています。



※複数さい帯血移植数を換算しています。



# 学会開催、さい帯血移植関連発表

今年の造血細胞移植学会が3月7日から石川県金沢市でありました。金沢は金沢大学の故服部絢一先生が国内で最初に骨髄移植を行った由緒ある地でもあります。学会のワーキンググループを中心にさい帯血移植と他の移植との比較解析の報告があり、様々な角度から骨髄移植や末梢血幹細胞移植、血縁者間と非血縁者間との比較があり、

さい帯血移植が他の移植と同等に比較されうる移植数になってきたことを実感しました。さい帯血移植では生着が遅いこと、移植片対宿主病（GVHD）の発症率が低いことが上げられた一方、成人の急性白血病や骨髄異形成症候群を含めた全体の解析では非血縁者骨髄移植に比べて有意差はないとの報告がありました。また、さい帯血移植で

はHLA2座不一致まで移植が行われていますが、ハプロ一致移植の方が好中球の生着率が高いという報告がありました。海外からはRocha先生によって1055例の複数さい帯血移植の紹介があり、フル移植では有意差がないものの、ミニ移植では再発率と2年無病生存率が複数さい帯血移植で良好であったと報告されていました。

## 投稿

### 第10回 国際さい帯血シンポジウムに参加して

後藤三郎\*

10年目を迎えた国際さい帯血シンポジウム（International Cord Blood Symposium）が2012年6月7～9日にサンフランシスコで開かれ、出席する機会を得たので、その概要をご報告します。

シンポジウム参加者は、アメリカの大学病院を中心とする医師、看護師、さい帯血バンク運営関係者および医療機器メーカーに加え、ヨーロッパ、中南米から40名ほど、日本などアジアから15名ほどの、総勢約450名でした。

シンポジウムでは――▽再生医療分野での、さい帯血を利用したパーキンソン病、アルツハイマー病、脳梗塞への取り組みなど新たな展開。▽インシュリン作成細胞をさい帯血から作る試みなど、患者の多い糖尿病分野への応用の研究。▽HIV感染を合併した白

血病患者をさい帯血移植により治療する試み。▽脳障害（出産時や乳幼児）や脳梗塞などへのさい帯血を利用した治療。▽白血病治療では、複数さい帯血による移植治療がごく一般的になりつつある。▽移植後の細胞の生着の速度を速めるための研究やGVHDを抑える工夫の進歩。▽アメリカとEUで協力しながらさい帯血の品質管理体制の確立と強化をさらに進める――などが報告・論議されました。

今回のシンポジウムから、さい帯血中の造血幹細胞のみを移植する時代か

ら、さい帯血中の様々な細胞を移植する研究、あるいは再生医療への応用などの研究が急速に進んでいることが明らかとなりました。また、対象疾患もこれまでの白血病中心から、非悪性疾患、神経疾患などにまで広がっていて、さい帯血移植が移植領域にとどまらず、再生医学の中心になろうとしていることが見て取れました。

\*筆者はコンピューター関係の企業人で、1998年からボランティアの一人としてさい帯血バンク及びさい帯血バンク情報ネットワークシステムの構築に携わった。これまで国際さい帯血シンポジウムに3回出席。

## 本誌は再び隔月刊に

昨年半ばより「さい帯血バンクNOW」は3カ月に1度発行となっていました。今年度より従来の2カ月に1回、年6回の発行体制に戻ることになりました。今後は隔月の15日発行、次号は6月15日発行予定です。



すこやかに、幸せに。  
明日への夢、描きたい。

**NIPRO**

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療器具を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。

**NIPRO**

ニプロ株式会社  
大阪市北区本庄西3丁目9番3号



## 連載第③回 元気になりました

# 移植後2カ月で退院、 1年後には海外旅行

田中 栄一

私は2010年11月17日にさい帯血移植を受けました。私に生きるチャンスを与えてくれたさい帯血を提供くださったドナーさん、さい帯血バンクさん、お世話になった病院の先生・看護師さんには心から感謝しております。この場をお借りしてお礼を言わせてください。

## 骨髄移植を断念 さい帯血に

2010年2月、急性リンパ性白血病フィラデルフィア染色体陽性とわかり、入院し治療が始まりました。その時私は37歳と3カ月でした。元々は7月に骨髄移植を受ける予定でしたが、直前で流れてしまい、再度10月にアレンジしてもらった移植も明日から前処置の全身放射線照射を受けるという日に中断してしまいました。幸い私と適合するさい帯血が一つだけあり、また新しいドナーさんとのマッチングを化学療法を受けながら3カ月待つよりも、骨髄移植はあきらめ積極的にさい帯血移植を受ける決意をしました。入院中は1日も早く生着して無菌室から出てやろう、1日も早く退院してやろうと、自分を奮い立たせていました。そのせいか移植後2週間半で無事に生着し、結果としてよい選択をしたと思っています。

## 体重減少

そして移植後2カ月少し前に退院できましたが、長い間食事に困りました。食欲そのものがないだけでなく、化学療法の副作用で味覚がかなり失われ、また少し食べただけでも腸がぼんぼんに膨れ上がってしまうため、多くの食物をとることができませんでした。移植から退院までに15キロ体重が減り、退院後の4カ月間も体重は減り続けさらに5キロ減り、移植前に70キロあった体重は一時50キロを切りました。身長が174cmですので、ガリガリでした。先生より体重が増えだすには退院し

て半年はかかるとうかがっていたものの、体重減はとても気になりました。体調さえよくなれば太るのは簡単だと自分に言い聞かせ栄養バランスは二の次にし、好きなものでカロリーの高いものを中心に食べました。この頃は体重を増やすよりも減らさない事に必死でした。毎朝起きるとまず体重を計り記録しました。先生の言ったとおり、半年後には少しづつ体重が増え始め現在は60数キロで落ち着いています。

## 退院後1カ月で 沖縄旅行

今はもう体重は気にせず、体力と筋肉をつけることに気を使っています。移植によって体力も大きく失いましたが、入院中からリハビリを行っていましたが、失ったものは大きく退院直後は通院した際に、順番を待っているのも苦痛でした。しかし、時とともに体力も体重も回復し、退院後ひと月でかろうじて沖縄旅行に行けるようになり、半年後には札幌にも行ってきました。旅行に行っても行動できる時間には限度がありましたが、心身ともにいい刺激



移植1年後に高校時代ホームステイした米サンディエゴのホストファミリーを訪問、筆者は右端

になりましたし、旅行に行くたびに前より歩ける、行動できる事が実感でき、移植からほぼ1年になる10月にはビジネスクラスですがアメリカにも行けるようになりました。

## 免疫抑制剤と感染症

感染症には特に気を付けて、外出後にはうがいと手洗いはもちろん、食事や薬を飲む前には必ず手洗いをしています。にもかかわらず、EBウイルスに感染してしまい、1カ月入院しました。その後も肺炎で1度、ウイルス性胃腸炎で2度も入院してしまいました。私の場合は未だに主に顔にGVHDによる炎症があるため、免疫力を薬で抑えているというのもあるかもしれませんが、感染症には引き続き十分注意しなければなりません。完全復活とまでは行きませんが、体調はほぼ9割方回復し、今は筋力をつけるためにジムに行き、旅行を楽しんでいます。7月にもまたアメリカに行ってきました。

## 焦らずに社会復帰を

病気になる前はタイのバンコクで働いていたので、また元気になってバンコクで働きたいと思っています。今年は難しいですが、来年にはタイに戻れるように現在タイ語を勉強しています。退院後はゆっくり焦らずに社会復帰を目指しています。回復の状態や時間には個人差があるかと思いますが、少しでも私の体験がご参考になれば幸いです。ともに頑張っていきましょう。

## 元気になりました 移植患者さんの手記大募集

本誌『さい帯血バンクNOW』では、さい帯血移植を受けられて、元気になった移植患者さんの手記を連載しています。移植から1年程度以上経過して、健康を回復された患者さんは、体験やメッセージを書いてみませんか。原稿は2000字程度にまとめて、写真やイラストなどとともに送ってください。投稿は郵送でもメールでもかまいません。また、いただいた原稿は本誌に掲載するほか、さい帯血バンクの広報活動で使わせていただくことがあります。どうぞふるって手記をお寄せください。

(送付先)

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3日本赤十字社ビル内

日本さい帯血バンクネットワーク「さい帯血バンクNOW」編集部宛

network-jimukyoku@j-cord.gr.jp





# 移植 病院 訪問

## ②3 信州大学病院

### 人の絆、地域連携を大切にした医療

病院のある長野県松本市は、日本列島のほぼ中央に位置し、西に日本の屋根「北アルプス」、東に美ヶ原高原を望むことができ、8県と境を接する地域交流の要の地です。また、国宝松本城を中心に発展してきた城下町には、歴史を感じさせる建物や街並みも今なお残っています。信州大学医学部附属病院の歴史も古く、1945年に開設されています。さい帯血移植数は、国立系大学病院の中でもトップクラスで、雄大な自然の中に緻密な医療の現場があります。

#### 小児科全体で サポートする移植

小児科は7名のスタッフで診療にあたっていますが、血液疾患だけを担当しているわけではなく「免疫・アレルギー」や「新生児」などの8つの治療班にわかれ、専門的知識をもって、こどもの診療にあたっています。いわば、小児科の中で他の診療科との連携が成り立ち、合併症等の対応には迅速です。1999年よりさい帯血移植を始めて今年で14年目を迎えます。移植件数は年間10例前後ですが、近年さい帯血移植件数は増加しています。「血液・腫瘍」を担当している中沢洋三医師は、近年の移植件数増加について「原発性免疫不全症や先天性代謝異常症などの非腫瘍性疾患に適応を広げて行っています。この病気は長期予後が厳しく、感染症などを繰り返します。取り返しのつかない場合も多くあります。さい帯血は生着不全のリスクが言われていますが、移植技術の安定もありその問題は比較的解消できていると考え、積極的に移植を検討しています」と話していただきました。また、遠方の家族にはテレビ電話等を駆使して入院中のこどもの



サポートができるように、周囲の環境整備にも積極的です。お母さんたちから頂いた「さい帯血」が医療者や家族の努力により、病気だったこどもが元気に笑顔で退院できる治療になりつつあることに、命のつながりを感じました。

#### 地域連携の発展を強化

血液内科は、2002年から同種移植、2004年からさい帯血移植を行っています。年間30例前後の移植数です。やはり、小児科と同様にさい帯血移植数が増加しています。「長寿地域でもあり、高齢者が増えたことは一つの理由ですが、一番は移植のタイミングをはかって適切な時期に準備ができる方法で治療を行えていることの結果です」と伊藤俊朗医師は話します。また、「広い地域の中ですが、タイミング良く治療介入ができるように、診断初期から共同して治療にあたることを目指します。地域連携を発展させていくことが新たな挑戦でもあるが、粛々と目の前にいる患者さんを助けることに全力で取り組みたい」と治療への想いを穏やかに熱く語っていただきました。病棟の看護師は、看護スタッフの入れ替わりが多いことや、混合病棟で移植患者さんを見ている難しさを感じつつも、毎朝のカンファレンス等で情報共有しながら患者ケアにあたっています。「先生の協力があってこそです……」と謙遜していましたが、不安を抱えて遠方から来る患者さんのこころのサポートを医療スタッフが積極的に行うことで、

治療を安心して受けることができます。医療スタッフの層の厚さを感じました。

長野県内は専門医療過疎地域であり、その点をカバーするためにも周辺地域との連携が欠かせないといえます。小児科も内科も地域病院との連携のつながりを大切に、患者・家族がよりよい治療を受けられるような地域づくりのために切磋琢磨していることに感銘を受けました。

#### ■善意のお気持ちに感謝します■

ホセ・カレーラスファンクラブ白血病基金様	500,000円
公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団様	250,000円
フェリシモファンド	132,750円
NPO法人 DREAM TOY'S様	50,000円
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団様	2,400円
東京都 具志堅宗浩様	100,000円
神奈川県 佐藤達也様	50,000円
大阪府 福田博行様	30,000円
愛知県 (匿名)	20,000円
埼玉県 大寺信行様	12,000円
東京都 江藤栄様	10,000円
東京都 堀北恵理様	10,000円
静岡県 (匿名)	10,000円
宮城県 (匿名)	7,000円
東京都 石川恵子様	5,000円
東京都 松本翔次郎様	5,000円
静岡県 (匿名)	3,000円
セキナナコ様	30,000円
ユキヒロマサヒコ様	50,000円
マツオジュンコ様	30,000円
マツモトトモコ様	10,000円

〈寄付受け付け専用口座〉

●郵便局からの振り込み

00180-9-57390

●他の金融機関からの振り込み

金融機関名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

支店番号：019（銀行のATMから当ネットワークへ寄付金を送金する場合は支店名は『レイイチキュウ』と入力してください。）

預金種目：当座

口座番号：0057390

口座名義：日本さい帯血バンクネットワーク